地域の源
私たちの町内会
Vol.22

三ノ関町内会

会　長　早坂 幸道 さん
会員数　78世帯

三ノ関地区は、西から東へ吉田川の支流である竹林川が流れ、水を導くために使用した堰（せき）が古くから存在し、それが地区の名前の由来となっています。近年には、堀や河川の増水で道路が冠水し、総会で河川改修の話題がない年はありません。昨年９月には、会館を含む住宅や事務所等が床上浸水する被害を受けたのは記憶に新しいところです。

町内会行事は、１月のどんと祭、６月の敬老会、８月の夏祭り、春と秋のクリーン作戦などがあります。敬老会では、参加者がそれぞれの踊りや歌などを披露します。夏祭りでは、ステージや竹ランタンなど、お祭りで使用するものはすべて地域の人たちで協力しながら、手作りで用意しています。このお祭りは、日中は流しそうめんやステージイベント、露店などの賑わいがあり、夜には竹ランタンが灯り幻想的な空間に包まれ、昼と夜で違った雰囲気を楽しむことができます。また、春と秋のクリーン作戦では、町道の法面の整備や草刈り作業も行い、地区内の環境整備にも積極的に取り組んでいます。

この地区には、奈良・平安時代から続く広大な田園をはじめ、慶長17年（1612年）に吉岡中興寺七異岸文秀和尚によって開山された独尊山威徳寺や、昭和48年（1973年）富谷ニュータウン造成時に現在の場所に新築移転した戦国時代の由緒ある伊豆神社、石碑、石塔など、古い歴史をもつものが多く存在します。

三ノ関町内会では、今年10月の市制移行後も、受け継がれてきた良き伝統を次世代に残しながら、住みよい地域づくりを展開していきます。